寫眞週報

情報局編輯

七月廿八日第二百八十二號・ナセ・

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

是が非でも勝たねばならない
苛烈、執拗なる空の決戰に
君よ今こそ空へ征かう
君よ今こそ機を造らう
勝ち易き戰ひに勝ち
勝ち難き戰ひにも勝つ
これが神州日本の眞骨頂だ

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

空へ・畏くも朝香若宮殿下の御垂範

畏くも朝香宮孚彦王殿下には、去る六月十日宇都宮陸軍飛行學校に一學生の御資格にて御入校以來一ケ月餘、寸時も惜しませ給うて飛行機の操縦術御修得に御精進を積ませられてゐますが、今日では既に完全に單獨操縦の御技倆にまで進ませられ、校長を乘せて鮮かな離着陸を遊ばされると拜されます

決戰の大空へ、金枝玉葉の尊き御身を以て、また陸軍航空總監部に佐官としての御要職にあらせられる御年齡にて年少の學生、生徒らの間に伍して御自ら操縦桿を御手に御操縦の技術を御習得させ給ふことは、陸軍として全く異例のことに屬し、殿下を以て嚆矢と仰ぎ奉り、また全陸軍將校としても殿下に比すべき前例を見ないといふ誠に畏れ多いことであります。殿下の航空決戰に寄せさせ給ふ御決心のほど拜察するだに畏き極みです

最近におけるレンドバ島、ニューギニア島方面の空陸海の戰鬪が逐日熾烈化しつゝありますとき、われらは航空決戰の重要さに尊き御身を以て率先御垂範遊ばされる殿下の御後に續いて、南方方面の戰鬪をソロモン群島、ニューギニア方面の兩戰鬪と切り離した別個のものと考へることなく、大局的なものと觀察し、一地一據點の爭奪戰に一喜一憂することなく、日米總決戰へ對處する覺悟を更に〳〵固くしませう

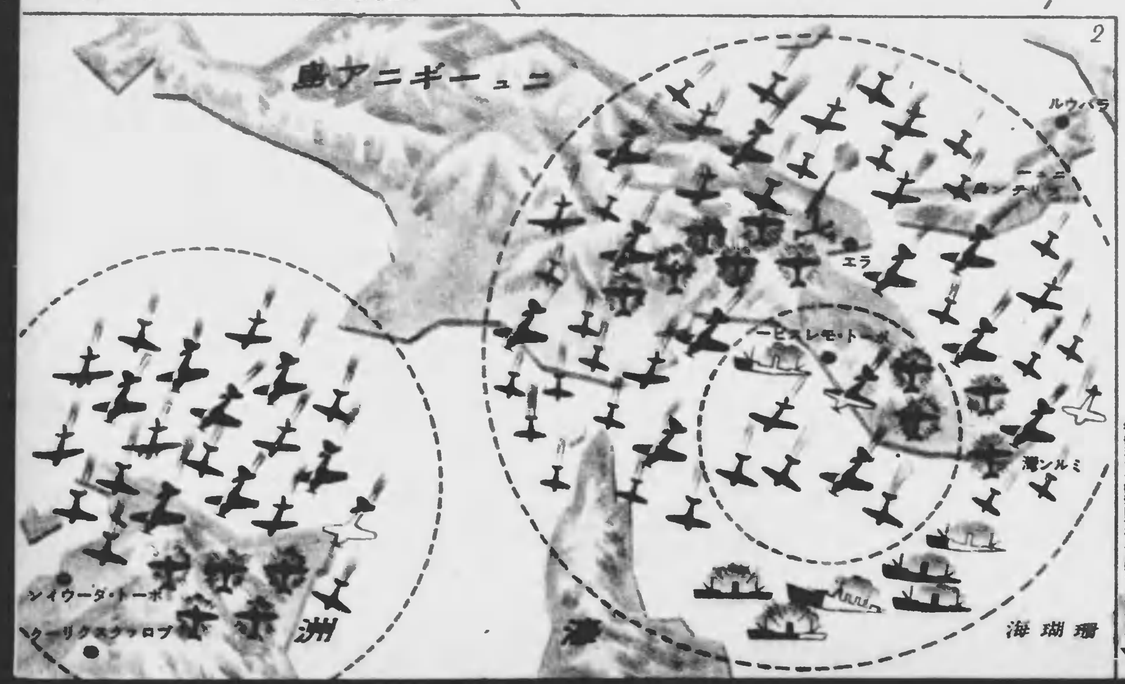
校長を乘せて〇時間にわたる畑着陸飛行訓練を終へさせられた殿下は少しの御休憩も遊ばされず、野外に設けた御席につき校長の所見に御耳を傾けられ、いち〳〵筆記さへおとりになられます

「御陪食中央か朝香宮殿下」

南太平洋空の決戰

三月二日～七月十二日

南太平洋方面における敵の空からの反攻は三月頃から逐日熾烈となつてきたが、わが航空部隊はその都度敵の出鼻をたゝき、三月二日から七月十二日までにソロモン群島並びにニューギニア、濠洲方面で航空機だけでも一千機以上を撃墜破するといふ大戰果を擧げた。しかしこの戰果の陰には、我が荒鷲の言語に絶する奮戰勞苦と數々の尊い犧牲のあつたことを忘れてはならない



ポート・モレスビー
四月十二日輸送船一隻撃沈、飛行機二十八機撃破、十數機地上撃破、自損五機

ポート・ダーウィン
三月十五日飛行機十六機撃破、未歸還一機、五月二日戰闘機二十一機撃破、六月二十日戰闘機二十七機撃破、三機撃破、自損三機、二十八日、三十日飛行機二十一機撃破、十五機地上撃破、七月六日（フロックスクリーク）戰闘機十六機撃破、宮崎機七機地上撃破、未歸還一機

日（オ・ロ）飛行艇一隻、輸送船三隻撃沈、戰闘機二十一機撃破、自損及び未歸還六機、十四日（ルン・ロ）ラビ飛行機輸送船四隻撃沈、七隻炎上沒、飛行機四十四機撃破、十數機地上撃破、自損五機、五月中（ラエ）飛行機十九機撃破、地上大破、六月二十日（ワウ）飛行機三機撃破、二十一日（ラ・セア）飛行機八機撃破、未歸還一機

ルッセル島方面
三月二日飛行機七機撃破、七機撃破、三月二十日戰闘機四十七機撃破、自損及び未歸還九機、六月十二日戰闘機三十八機撃破、未歸還二機、六月七日飛行機四十二機撃破、未歸還六機、十二日飛行機三十三機撃破、未歸還五機

ルンガ沖海戰
六月十六日輸送船七隻、駆逐艦一隻撃沈、輸送船一隻撃破、飛行機三十二機以上撃墜、未歸還二十機

フロリダ島沖海戰
四月七日巡洋艦一隻、駆逐艦一隻、輸送船十隻撃沈、輸送船三隻撃破、飛行機十七機撃墜、自損六機

レンドバ島方面
六月三十日、七月一日巡洋艦一隻、駆逐艦五隻、輸送船三隻撃沈、巡洋艦一隻、駆逐艦一隻、輸送船三隻撃破、未歸還三十一機、七月一日飛行機九機撃墜、輸送船一隻撃破、三日戰闘機九機撃墜、四日輸送船五隻撃沈、飛行機二十三機以上撃墜、自損九機、九日（レンドバ）飛行機五機撃墜

ニューチョーチア島方面
二月二日戰闘機二機撃墜、一月中（ムダ）飛行機二十七機撃墜（地上大破）、四月二十六日（カツタイ島）戰闘機二機撃墜、四月中（カツタイ島）飛行機三十六機撃墜（地上大破）、五月中（ムンダ）飛行機三十九機撃墜、地上大破、七月中（ムンダ）飛行機三十九機撃墜、地上大破、七月中（ラ・ロ）巡洋艦一隻、駆逐艦一隻、輕巡洋艦一隻、輸送船一隻撃沈、五日（ラ・ロ）巡洋艦一隻、駆逐艦一隻撃沈、飛行機十機撃墜、七日（ルビアナ島）戰闘機三十機撃墜、十一日戰闘機二十機撃墜、未歸還四機、十二日戰闘機二十機撃墜、未歸還三機

コロンバンガラ島方面
三月中飛行機二十三機撃墜（地上大破）、四月中飛行機三十三機撃墜（地上大破）、五月中飛行機十三機撃墜（地上大破）、月十二日夜巡洋艦一隻撃沈、一隻炎上、飛行機一隻大破

ショートランド島方面
三月中（ブイン）飛行機三機撃墜（地上大破）、四月中飛行機六機撃墜（地上大破）、同月中（ブイン）飛行機二機撃墜（地上大破）、五月中（ブイン）飛行機六機撃墜（地上大破）、六月五日飛行機二十機撃墜、自損三機

ニューギニア東部方面
三月二日飛行機二十五機撃墜、自損及び未歸還五機、同日（ラエ）飛行機四機撃墜、一機撃破、自損及び未歸還二機、三日輸送船一隻撃沈、四日飛行機八機撃墜、六日機一行機十九機撃墜、十機撃破、八日輸送船一隻撃沈、一隻大破、十一日戰闘機十八機撃墜、撃破十五機、自損及び未歸還二機、二十八日（オ・ロ）機逐艦一隻、輸送船二隻撃沈、戰闘機十

撃墜機、自損及び未歸還三機、三月中飛行機三十一機撃墜（地上大破）、四月十一

ロシア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

訂正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正個所	直前の　1コマ取消 1コマ再撮影
訂正年月日	平成 17 年 1 月 24 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者　佐藤友章　印

受託責任者　神奈川県南足柄市中沼210番地　富士写真フイルム株式会社　代表取締役　古森重隆　印

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

南太平洋空の決戰

南太平洋方面における敵の空からの反攻は三月頃から逐日熾烈となつてきたが、わが航空部隊はその都度敵の出鼻をたゝき、**三月二日**から**七月十二日**までにソロモン群島並びにニューギニア、濠洲方面で航空機だけでも一千機以上を撃墜破するといふ大戰果を擧げた。しかしこの戰果の陰には、我が荒鷲の言語に絶する奮戰勞苦と數々の尊い犧牲のあつたことを忘れてはならない

ルッセル島方面
三月二日飛行機七機撃墜、七機撃破、三月一日戰闘機四十七機撃墜、自爆及び未歸還九機、五月十三日戰闘機三十八機撃墜、六月七日飛行機四十機撃墜、未歸還二機、六月七日飛行機三十二機撃墜、未歸還六機、十二日飛行機三十三機撃墜、未歸還五機

ルンガ沖航空戰
六月十六日輸送船七隻、駆逐艦一隻撃破、輸送船二隻撃破、飛行機三十二機以上撃墜、未歸還二十機
フロリダ島沖海戰
四月七日巡洋艦一隻、駆逐艦一隻、輸送船十隻撃沈、輸送船三隻撃破、飛行機十七機撃墜、自爆六機

レンドバ島方面
六月三十日、七月一日巡洋艦一隻、駆逐艦五隻、輸送船三隻撃沈、巡洋艦一隻、駆逐艦一隻、輸送船三隻撃破、飛行機十七機以上撃墜、未歸還五十一機、七月二日飛行機九機撃破、輸送船一隻撃破、三日戰闘機九機撃墜、四日輸送船五隻撃沈、飛行機二十三機以上撃墜、自爆九日（レンドバ島）飛行機五隻撃墜

ニューチョーチア島方面
二月二日戰闘機二機撃墜、一月中（ムンダ）飛行機二十七機撃墜（地上火砲に）四月二十九日（カッチョ島）戰闘機六機撃墜、四月中（ムンダ）飛行機三二機撃墜（地上火砲）、五月中（ムンダ）飛行機三十八機撃墜（地上火砲）、七月中（ムンダ）三機撃墜、駆逐艦一隻、駆逐艦一隻撃破、六日（クラ湾）飛行機十隻撃破、七日（ルビアナ島）戰闘機三十一機撃墜、未歸還四機、十一日戰闘機二十一

コロンバンガラ島方面
三月中飛行機二十三機撃墜（地上火砲）四月中飛行機三十三機撃墜（地上火砲）五月中飛行機十三機撃墜（地上火砲）月十二日夜巡洋艦二隻撃沈、一隻炎上、巡洋艦一隻大破

ショートランド島方面
三月中（ブイン）飛行機三機撃墜（地上火砲）四月中飛行機六機撃破（地上火砲）同月中（ブイン）飛行機二機撃墜（地上火砲）五月中（ブイン）飛行機六機撃墜（地上火砲）六月五日飛行機二十機撃破、巡洋艦三隻

ニューギニア東部方面
三月二日飛行機二十五機撃破、自爆及び未歸還五機、同日（ラエ）飛行機四機撃破、一機撃破、自爆及び未歸還二機、三日輸送船一隻撃沈、四日飛行機八機撃墜、六日輸送船一隻撃沈、十機撃破、八日輸送船一隻撃沈、一隻大破、十一戰闘機十八機撃墜、撃破十五機、自爆及び未歸還二機、二十八日（ラエ機）巡洋艦二隻、輸送船二隻撃沈、戰闘機十

撃墜機、自爆及び未歸還三機　三月中飛行機三十一、撃墜機、地上火砲）　四月十一

ポート・モレスビー
四月十二日輸送船一隻撃沈、飛行機二十八機撃墜、十數機地上撃破、自爆五機

ポート・ダーウィン
三月十五日飛行機十六機撃破、未歸還一機、五月二日戰闘機二十一機撃破、六月二十日戰闘機二十七機撃墜、三機撃破、自爆五機、二十八日、三十日飛行機二十一機撃墜、十五機地上撃破、七月六日（フリックスクリーク）戰闘機十六機撃墜、高射砲七機地上撃破、自爆五機

ポート・ガーウィン
三月十五日飛行機十六機撃破、未歸還一機、五月二日戰闘機二十一機撃破、六月二十日戰闘機二十七機撃墜、三機撃破、自爆五機、二十八日、三十日飛行機二十一機撃墜、十五機地上撃破、七月六日（フリックスクリーク）戰闘機十六機撃墜、高射砲七機地上撃破、自爆五機

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

敵機撃滅に挑む荒鷲

⇧ 六月二十日、同二十二日の兩日に亘つてわが陸鷲はポート・ダーウィンを攻撃、敵二十七機撃墜、地上の三機撃破、その他飛行場施設を粉碎した。前方に見えるのは敵戰闘機、炎上するのは敵軍事施設

⇦ 偉勳を誇るでもなく、ダーウィン爆撃から歸つた陸鷲は「やあ、やあ」といふのみて何事もなかつたやうだ

大東亞戰爭日誌

——六　月——

十二日　●帝國海軍航空部隊は六月十二日再度大擧ルッセル島上空に殺到し敵數十機と交戰、その三十三機を撃墜せり。我が方の損害、未歸還五機

十八日　●帝國海軍航空部隊は六月十六日戰爆連合の大編隊をもつてガダルカナル島ルンガ沖敵輸送船團を强襲せり。本日までに判明せる戰果左の如し

輸送船　大型四隻　撃沈
同　中型二隻　撃沈
同　小型一隻　撃沈
同　大型一隻　中破
驅逐艦　一隻　撃沈
飛行機　三十二機以上撃墜
我が方の損害　未歸還二十機

（註）本戰鬪をルンガ沖航空戰と呼稱す

二十一日　●帝國陸軍航空部隊は六月二十日及び二十一日ニューギニア島ワウ附近敵飛行場を攻撃、次きの戰果を收めたり　（一）六月二十日ワウにおいて地上にありし敵飛行機三機を撃破す。我に損害なし　（二）六月二十一日サラモア附近上空において敵戰鬪機二十數機と遭遇、その八機を撃墜、三機に損害を與へたり。我が方一機未だ歸還せず

二十二日　●帝國陸軍航空部隊は六月二十日及び二十二日濠洲西北部における敵空軍基地ポート・ダーウィンを攻撃せり。その狀況次きの如し　（一）六月二十日敵戰鬪機四十數機と交戰、その二十七機を撃墜し、地上にありし三機を撃破せるほか、兵舍群の大部及び飛行場施設を爆碎、數箇所を炎上せしむ。我が方の損害、自爆三機なり　（二）六月二十二日敵戰鬪機を誘つて再度進攻せるも、敵飛行機及び對空火器より激戰するもこれを撃墜せり

二十五日　●ソロモン群島方面帝國陸海軍地上部隊は六月二十日、二十一日、二十三日、二十五日來襲せる敵延機數二百九機と交戰し、その二十七機を撃墜せり

三十日　●二十六日、二十日早朝ソロモン群島レンドバ島方面に輸送船、巡洋艦、驅逐艦等二隻を有する敵有力部隊出現、その一部は同島に上陸せり。（一）帝國海軍航空部隊はこの敵に對し數次に亘り果敢なる攻撃を加へ、輸送船一隻、巡洋艦一隻を撃沈破し、敵戰闘機二十機以上を撃墜せり。（二）同方面帝國陸海軍部隊は常國なる協同の下に作戰續行中なり

●帝國海軍航空部隊は六月二十八日及び六月二十日、ポート・ダーウィン及びブロックスクリークを急襲し、敵戰闘機二十一機を撃墜、同大型十五機を地上撃破し、軍事施設二箇所を爆破炎上せり。我が方損害なし

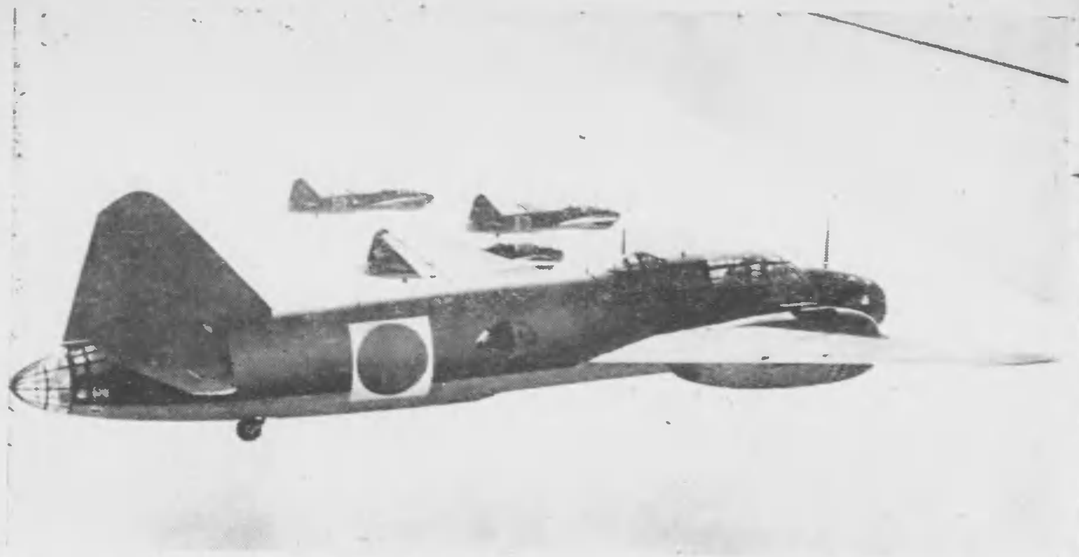
●ソロモン群島方面の敵は、六月二十日レンドバ島方面の一部增援に引續き、隣接するニュージョージア島の奪取を企圖し、その數箇所に上陸し來れり。同島各地において目下戰鬪續行中なり

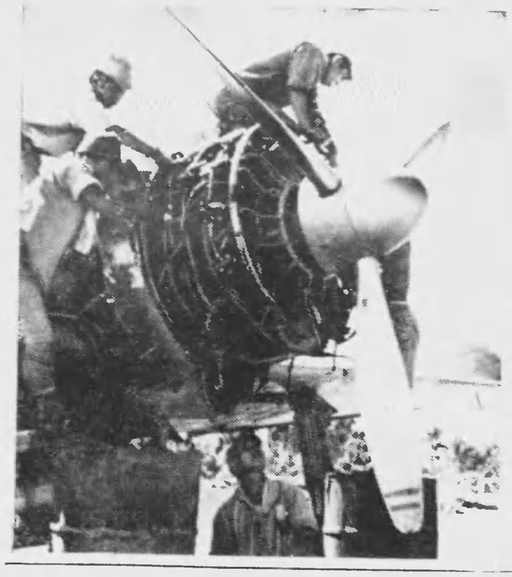
——七　月——

一日　●帝國海軍航空部隊は七月一日引續きレンドバ島方面の敵を攻撃せり。六月二十日及び七月一日の結合戰果左の如し

（一）艦船　巡洋艦一隻撃沈、同一隻撃破、大型輸送船四隻撃沈、驅逐艦一隻撃沈、同一隻撃破、輸送船一隻撃沈、同二隻撃破、飛行機七十七機以上撃墜

我が方飛行機二十一機未歸還





⇦ 苛烈、火の出るやうな航空決戰に機の破損はまた免れない　ソロモン最前線の海の整備員は休む暇もなくこの苦勞である

⇧ 敵機何者ぞ、決戰を挑む新鋭海鷲の大編隊は長驅敵基地を急襲する

⇨ 次きから次きへ息つく間もない敵機の來襲である　わがソロモン最前線○○島における海軍部隊の對空監視哨はその都度遠かに報告する

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

戰線に心飛ぶ少年飛行兵

宇都宮陸軍飛行學校

⇧編隊飛行の訓練は軍隊のようだが、ずいぶんかゾクしい、教官と共に雲間で、飛翔中の少年飛行兵。ずらりを眼下に見る一呼吸間で、或ひは一機、三機と編隊を組んで、練習機六大野ケ原上空を縦横に飛翔してゐる。この機群こそは、畏くも朝香宮孚彦王殿下の御入校遊ばされてゐる宇都宮陸軍飛行學校所屬の練習機で、同校の鍛錬たちが可愛飛行で操縦法を修得する猛訓練ぶりである

宇都宮陸軍飛行學校は、飛行術の操縦を專門とする少年飛行兵を教育すると共に、陸軍大臣の指示によつて、臨時に兵科（憲兵を除く）將校以下を召集して飛行機操縦術を修得させ、陸の荒鷲養成の地である

明日の大空へ、決戰の大空へ、少年飛行兵は燃ゆる決意を連日の猛訓練に打込んで敵へに敵へる

⇧グライダーの滑空訓練は操縦士の技術操縦を習ふ前にみつちり滑空訓練を行ふ

⇧編隊飛行から離つた少年飛行兵は第八回目飛行終了を記入する

⇦よし、決戰の空へ征かう。選ばれた少年飛行兵の訓練は火の出るやうに進められる

⇦「鈴木つ、お前の腕は右に傾き過ぎる」教官の厳しい叱咤、可愛い教え子、お前の腕に銀、ゴムさしの練習

二　日　●帝國海軍航空部隊は七月二日レンドバ島を攻撃し、敵上陸地點附近一帶に大火災を生ぜしめると共に、敵陣九機を撃墜し、輸送船一隻を撃破、舟艇多數を撃沈せり。我方損害なし　●帝國陸軍編隊爆撃機數隻は七月二日夜間レンドバ港を夜間強襲し、同港西岸敵陣地に攻撃を加へ、魚雷命中一隻を撃沈、同一隻を撃破せり

三　日　●帝國海軍戰闘機隊は七月三日レンドバ島上空に殺到、敵戰闘機群と交戰し、その九機を撃墜せり。我が方損害なし　●帝國海軍機は六月中敵船十一隻八万五千トンを撃沈せり

四　日　●帝國海軍航空部隊は七月四日レンドバ港の敵輸送船團及び陸海軍場を攻撃せり。戰果次の如し（一）敵に與へたる損害　輸送船五隻及び舟艇十數隻撃沈、集積所を焼滅、炎上、飛行機一十三機以上撃墜（二）我方の損害　自機九機

五　日　●ニューギニア島北西部クラ灣方面における今日までの戰闘狀況左の如し（一）七月五日參謀同地帝國陸海軍部隊並びに同方面作戰中の帝國海軍部隊は艦種不詳の敵巡三隻を撃沈せり（二）同日遠間帝國海軍航空部隊はクラ灣上空において敵機群と交戰し、その十機を撃墜せり（三）同日夜半帝國海軍戰隊所屬駆逐艦數隻は巡洋艦、駆逐艦十數隻より成る優勢なる敵部隊に對し肉薄攻撃し、巡洋艦一隻轟沈、同一隻を撃破炎上し、これを潰走せしめたり（註）本海戰をクラ灣夜戰と呼稱す

●ニューギニア島東南部サラモア附近の我が守備隊は六月三十日以來

ナッソウ灣に上陸せる米軍及びこれに呼應しワウ方面より前進せる豪洲軍に對し反撃作戰實施中にして、特にボブタビ附近においては七月五日敵の背後を急襲し、これを潰滅せしめたり。我が航空部隊また七月一日、三日及び五日ナッソウ灣の敵を攻撃し、敵船舶群、船舶場等に對し大なる損害を與へたり

六　日　●帝國海軍航空部隊は七月六日再度北豪洲ブロックスクリークを攻撃し、敵戰闘機十六機を撃墜、同重爆撃七機を地上撃破し、軍事施設五箇所を爆破炎上せり。我が方未歸還一機

七　日　●帝國海軍航空隊は七月七日ニューチョーチア島ムンダ南方ルビアナ島に進出し來れる敵を攻撃し、その陣地に全面大火災を生せしめ、その上空において敵戰闘機二十一機を撃墜せり、我が方未歸還四機

十　日　●その後の詳報によればクラ灣夜戰の戰果左の如くなりしこと判明せり

七月四日　サンタフェ型乙級巡洋艦一隻撃沈、ストロング型大型駆逐艦一隻撃沈、艦型未詳一隻撃沈

七月五日　ヘレナ型乙級巡洋艦一隻轟沈、艦型未詳乙級巡洋艦一隻撃沈、特務艦一隻撃沈

十一　日　●帝國海軍航空部隊は七月九日豊間レンドバ港上空に殺到、敵二十機と交戰し、その五機を撃墜、上陸用舟艇六隻を撃沈し、七月十一日更に戰爆連合編隊をもつてニューヂョーヂア島西北岸に投陸中の敵を攻撃し、敵F38戰闘機四十機の中に猛然突入、その二十四機を撃墜せり、我が方未歸還二機

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

欣然と子等は羽搏く

世の親は、自分の愛児をこの世に決せられるのだと、いさぎよく国の為、今年迎はるこの若い命に美国の血潮を注ぎ、誇りとして起ち上つてゐる

海軍飛行豫備學生として幾千幾万の學徒が……新鮮少年飛行兵たらんとして、より多数の少年達がひたむきな情熱を捧げて、祖国の今におもむかうとしてゐるのだ

連日殺到する熱誠こめたこれらの志願書。この志願書をめぐつて幾多の美談佳話が傳へられてゐる。一人としかないわが子の決死志願を聞き、その母が血で綴る懇願書を寄せ、夫ではすでに五児を長に捧げながら、なほ幾多の子を天皇にゆけとはげます老母あり、七十の老躯を自ら手ずからにかけて育て上げた唯一人の孫の願ひをかなへさせようと、杖にすがつて學校長を訪ひ切々と懇願する等、實に枚挙にいとまがないほどなのだ

ことに、その大部分が妙齢に目ざめた母達が、わが子の熱情を叶へることこそ貞淑の愛情であると、かつてはお身に代へてもと、母の命までもかけて愛しみ育んできた愛児を潔く手離し、祖国のために死せよとまで訓す日本の母の御覚悟、雄々しさ、これこそ日本の母のうちに潜むより大きな母の姿

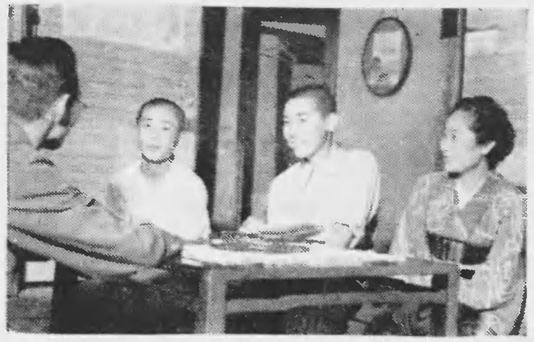
お父さんの伴奏に、弓もつ手にも力をこめて　伊達愛氏と長君（左）

を見られたとのことだ、つひに兄潤朗（十七歳、自由学園五年生）を海の荒鷲として、次に潤朗（十六歳、自由学園三年生）を陸の荒鷲として、共に捧げた少年飛行兵を志願させたのだが、これ以外にこの母に対へ嗚咽を堪つて、我々として感激感銘を目ざして身體を鍛り學科の勉学にと懸命なわが子等の姿をみるにつけ、日本の母の幸福に浸くとともに、是が非でも役立たされなければと日夜それのみに苦心してきたのだつた。ことに、いつの間にか傳へられて新聞紙上に報道されてからは、これを見た學校の級友中からも嘆名かの志願者が出たといふことだ。昨日は三宮柄君（鎮護新聞寫真部長の息）も志願したよといつてゐた。先頃に立つたものが落ちるやうなことがあつては母親ふくさんは意を決して筆をとつたのだつた。海軍省富局御中、陸軍省富局御中、二通の手紙を封じ終へると、ほつとしながらまた思ひつゞけるのだつた。海軍へ献金にいつたときに思はず拝きすにはゐられなかつた献金室に海あれてゐた九軍神の筆跡――さうだ、あんな手柄はできなくてもいゝ、せめてあの社員ごとのやうなことでもやつてゐれればと、また、いつかのラジオ放送で聞いた高戸中尉の海鷲になれといふ強い呼かけ、その後新聞で見た慶應大學での壮行、結人雑誌で読んだ文章など、いつかそれに確へて起ち上つてくれたわが子二人の姿に、ま

た、この非常時に立つ御國に大変申わけない事に御座いますが、私には子供が大勢ございまして、多くの御子様を持つて澤山の御苦労いたしておりますこと存じます。私の心配は日々に変るばかりでございます。二人の子がやつと三人分の働きをして居ります。召されたその日に大空に散りませうとも何等の悔は御座いません。

十の鶴に死なせる為に育てて参りました子供達、死場所を得て満足致しますなら、親も子も本望で御座います

勝敗も問題も決して人に優れた子供では御座いませんから、幾千幾万の優秀な志願者の中から最重に御選定になるなんてかしい試験に難なく合格することは考へられず、私の心配は日々に変るばかりで御座います。子供の父親は折角中學五年に近づきたもの故、せめて専門の教育を授けてからと頑張りまして居りますが、もうやく新聞紙上に、青年學徒は続々と決戦場に馳せつゝあるとき、その嬉しい感受性もつて、ひときは戦ひの前夜のひとときも感じとり、愛国の情熱に胸おどらんばかりなる、勝利の曲を聞く日までにピアノもヴァイオリンも捨て、指揮棒を握つて空に戦はうと、物心ついてこころから音楽の世界の中に育てられた子供達の為にこの戦、その鋭い感受性もつて、決戦場を目指してガイヤリンを拾つて起ち上つたのだ。かつてのサテーのさうに、香ばしい使



和やかな団欒のひとゝき　右より母親、片山ふくさん、長男、潤朗君、次男、鈴蘭君、父親、高樹さん

命感に、ますます力強く、ピアノ科一年の伊達愛氏は、兄潤朗君の決戦場に馳せつゝあるとき、その嬉しい感受性もつて、ひときは戦ひの前夜のひとときも感じとり、愛国の情熱に胸おどらんばかりなる、勝利の曲を聞く日までにピアノもヴァイオリンも捨て、指揮棒を握つて空に戦はうと、物心ついてこころから音楽の世界の中に育てられた子供達の為にこの戦、その鋭い感受性もつて、決戦場を目指してガイヤリンを拾つて起ち上つたのだ。かつてのサテーのさうに、香ばしい使

轉用工場の々上は積成

社會式株造製機信通士宮
場工〇〇

吾文月望　影撮

⇨ 明治の製糸場を知る人にとっては、懐かしい機械。こゝにも新しい機械が入れられて

⇨ 昔の製糸工場と現在工場とは、それゝ、来繰工場も電子機工場に生れ更り、かつての糸繰りと違ひ、操作に躍動して、指先、肩、腕の神経と緊張の連続。

かつての繰糸工場（上右）がそのまゝ現在は素線工場（上左）となつてゐる

⇨ 山来目つゝ、面積で検査をさつてゐる市村松枝さんは、後作業を五年、繰糸工場に入り、覚えはじめは苦労したが、現在は昔の作業と比べて疲れることもない。苦労も忘して本社に良さまさん、と語る

場返作業を三年やつてゐた村山のりさん。現在では線輪捲きを、小型御建機線輪なら一日に八十本、表面器線輪なら百本位捲けるようになつた。これまでになるには約半年の修業があつた、と語る

四十年の製糸工場としての歴史を思ひ切つてかなぐり捨て、近代戦には缺くことのできない通信機工場へ。これは、人、物、資本のすべてをあげて直接の戦力増強に結集するため、昨年四月、時局的轉換を率先實践した長野縣下の舊片倉製糸〇〇工場、現富士通信機製造株式會社〇〇工場の模もこゝにあるまゝ

〇〇工場が轉換した昨年四月、製糸統制による操業の困難は身近かに迫つてゐたが、當時はまだ微弱した轉換の心構へは業界に浸透してゐなかつた。そこで先輩するものの苦闘も多かつたわけだが、〇〇工場は全く上下一體となつてこれを克服した。古い機械の撤去や新らしい設備の備へ付けにも全員が汗にまみれてあたつた。そして四百名に近い女子工員も、始めと全部新らしい工場に變つたのである

女子工員の技術習得のためには、早速、昨年四月から三月にかけて、一回約百名位づゝ本社工場に派遣して、一ヶ月から二ヶ月位の懇命な訓練が積まれた。轉換後僅かに一年、現在各作業の能率は、本社工場に比べて決して遜色がないといはれる。繊密な製糸作業で永年鍛へられた指先の器用さと勘が、精密な機械を取扱ふ新らしい作業の習得に少からず役立つたかも知れない。が、短期間にかゝる成果をあげた最大の原因は、轉換にあたつて幹部以下殆んど全員が新らしい職場に挺身し、ことにあたつて相扶け勤まこゝふとともに、あくまで新らしい職場で御奉公しようといふ女子工員の積極的意志があら之困難に打ち勝つたことである

これも線糸作業にしてもお手伝してゐた小川もとさん。現在品になつて、現在通信機が如何に一本でもおろそかに扱ふと全然製に比べて本當に責任が重いと思ひます、と語る

場返作業を三年やつてゐた小坂清枝さん。現在は中繰素の組立作業に従事してゐる。實に複雑な機械と電線の組合せ、ひゝみに處理してゆく手先を見てゐると、これが淑かに一本の生産の結果かと驚かされる

工一如

新潟縣荒濱村

⇦ 車の、ピストンリングは、やがて飛行機の、重要部品となる。農村工員の手でとしノヘと仕上げられてゆく——機械の騒音にあやされてか背の坊やもおとなしい

⇦ 農村工場の婦人工員は今日は遠い戦に銃を執る夫に食糧増産の戦士だ

農村としての使命は何といつても食糧の増産だ。そして供出だ。今日は馬鈴薯の供出日、村役場の前には續々と村の收穫が運ばれてくる。農工を一手に引受けてこの村は全能率をあげての戦ひに懸命だ

⇦ 農村工場の婦人工員は今日は遠い戦に銃を執る夫に食糧増産の戦士だ

⇦ 出来上つた製品は牛車やリヤカーにつまれて親工場へ運ばれてゆく

⇦ 出来上つた製品は牛車やリヤカーにつまれて親工場へ運ばれてゆく

汗に結ぶ兵学一如

一高勤労報国隊の陸軍○○○に協力するけおの勤労奉仕

⇦ 炎天下の釣げつく暑さも、意氣軒昂たる熱意にふつとんでしまふ

⇦ 『こりゃ参ったぞ、肌がへつたるぞ』と平の勇者で赤豆混ぜたお握りを出ろ。それからうまいこと、うまいこと

⇦ 『振つて〳〵振りぬいて、山も厚と崩してやるぞ』これが同窓健兒の誓ふ決意だ

『老いも若きもすべて決戰場へ』

安閑と學に勤しむばかりが學徒の本分ではない。同い年の若人達は、炎暑の熱帶に、吹雪く北邊に銃を把り、また國内の生産戰線に鍬を把つて闘つてゐる。われら學徒とて夏休みどころではない、夏休みを返還して戰力增强に働かう、と大學、高等專門學校の學徒が蠭起し、陸軍の造兵廠、被服廠、兵器補給廠、或ひは重要産業の職場で七月一日から敢闘してゐる。學徒の延數、實十万名を超える勞働の成果も元より大切であらうが、それにも增して大事なことは、勤勞の汗によつて學徒が心身を鍛へられることだ。馬車馬のやうにたゞ働くのでなく、お國のために働くのだと學徒が身を以て感じ取つた時、もはや勤勞奉仕ではない。それが勤勞を通しての兵學一如の教育なのだ

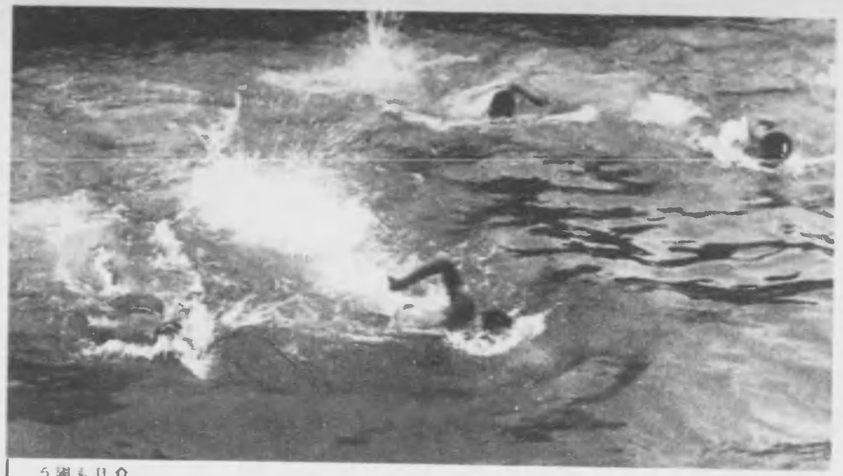
⇦ われらをさへぎるものは何もない。山を崩し谷を埋め鄙・高等學校二年生三百三十名健兒の作業は進む、無敵皇軍の如く……

⇦ 赤土塊利を埋めて、貨車を滑動した軍用貨物自動車が通ればすぐ退路に變る。だからこそ路面を急いでなほすのだ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八月の常会

勝つためにはどんなことにも耐へることが必要です。と同時に、耐へるためにはあらゆる努力をはらひ工夫をこらし、國民が全能全力を盡して決戰生活を實踐してゆくことが必要です。常會はそのための眞劍な議場であり、研究室でもあるのです。從つて、こゝで論議され、こゝで決定したことは直ぐに實行にうつさねば何にもなりません。さあ、今月もまた重大な徹底事項が澤山あります。皆さんの工夫創意を加へて、どんなことがあつても徹底的に實踐してゆきませう



食糧を國内で賄ふために——決戰食生活を實行しよう

一　混食で節米だ

これから混食用として甘藷、馬鈴薯、大豆が米の通帳で米と差引て配給されることになりますが、今月は馬鈴薯と大豆です。混炊の一例を申しますと、米一升について馬鈴薯五百匁、水二升の割で炊き、少し塩を入れると、上けい美味しく食べられます

二　地方では郷土食の勇行で

ダ[illegible]ばかりで食べてゐた郷土の

⇧日本は海國だ。そして戰場もまた海だ。壯丁は勿論、銃民の一人々々が泳げるやうに努めませう

三　玄米食を實行

[illegible]せて玄米食を實行してゐない家庭では、出き方、食べ方を工夫して是非實行して下さい

次きに愈々本格的な暑熱がやつてきます。

この暑熱を道場として——健全な心身を鍛へよう

一　この夏は壯丁の皆泳訓練が行はれます。壯丁諸君はもとよりのこと、國民皆が泳げるやうに附近の海や川、沼等を利用して水練で鍛へよう

二　登山や徒歩旅行やその他の運動もよいが、何といつても勝つための生活といふ考へに立つて、この夏は工場や農村等への勤勞奉仕や食糧增産の空地開墾、蔬菜栽培等の勤勞即鍛錬で心身を鍛へよう

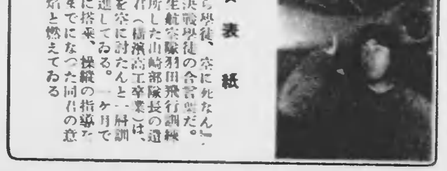
莨廠も大分延びたでせう——一粒でも多く穫るために十分の手入れをしませう

一　草取りを手まめに行ひ、時々まはりの上を耕して軟かくし、乾きすぎぬやう時々水をやること。また、下肥かドブ水その他の肥料を根元から離して施すこと

二　風に倒されぬやう莖ののび工合に應じて支柱を立て、もし風に倒されたらすぐ起して支柱で支へること

防空決戰に勝つために必要な潤滑油をとるために立派な收穫を上げませう

⇨ヒマも手入れをしなければよく穫りません。ヒマは丈が高くなりますから、倒れないやうに支柱を立てませう。また雜草も手まめにとりませう



★表紙

『われら學徒、空に死なん』これが決戰學徒の合言葉だ。こゝ學生航空隊羽田飛行訓練所に入所した山崎部隊長の遺兒保之君は橫濱高工卒業ほやほやの身を空に討たんと一層訓練に精進してゐる。一ケ月で練習機に搭乘、操縱の指導を受けるまでになつた同君の意氣込は焔と燃えてゐる

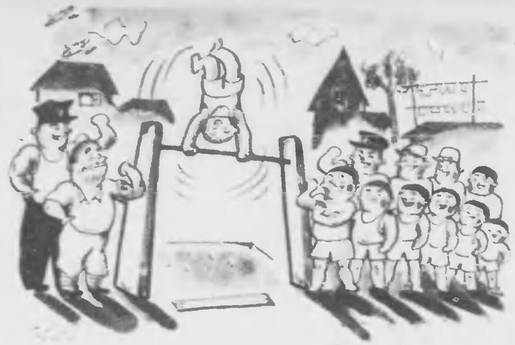
海軍屬係寫眞の複寫複製は海軍省承認濟（第九二四一號）

照準器

おらが隣組で自慢のものは

⇨荒鷲養成　杉　柾夫

『わしの隣組は十戸ちやが、十五人の荒鷲を出してみせるぞ。もう既に三人は在隊中、この大學生は志願者みたいや。隣條は毎日この通り』



⇨防火用水增强隊　小泉　紫郎

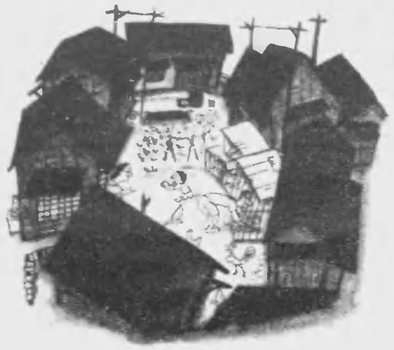
お風呂を動員することにした。これに乳母車か三輪車の車輪をつけて、ときどき移動出來る様にやろ

共同飼育所⇩　南　義郎

增産運動に呼應して兎と鶏のお家を造つた。週番で一時間早起きの食話役をはじめてから身體の調子は上々。新らしい卵の御ほうびも出る。車兎としてお役に立つ日も待ち遠しい

⇩山の町の回覽板　植本　映

おらが山の町の山[illegible]が板覽回とんやもてつかに町の[illegible]ある[illegible]板覽回がらは[illegible]五[illegible]ことろ[illegible]



空の教室⇩　森熊　猛

こゝん所がおらの隣組の空の教室です。今日は敵機銃別の訓練

『これは？』

『ボーイングB17です』

これこの通り

隣組貯蓄成績表⇩　秋　玲二

『皆さん、この調子ぢや來月は天井にとどきますよ、ハツハツハ』

おらが組長のえひす顏を御覽下さい

大東亞戰爭漫畫日誌

石川　進介

職業に輝く女飛事隊六周年

我が水雷艇隊の肉迫戰で大敵大損傷

南南島の殘敵掃蕩さる

米戰鬪機女飛行士を狩り出す

ナツウ島上陸の米兵を痛撃

シチリア島上陸の敵機所に潰滅

國理を逞へ現地に凱く感激の日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大陸旅行のお問合せは
滿鐵鮮滿支案内所へ

東京　日比谷公園前
大阪　堺筋安土町
名古屋　中區榮町一ノ一〇
敦賀　驛前大通
門司　税關前
長崎　万屋町七九
下關　驛前
新潟　古町通六番地
札幌　北二條西三丁目

寫眞週報
（禁轉載）

昭和十八年七月廿八日　印刷發行
編輯者　情報局
東京都麹町區永田町一ノ一
印刷者
發行者　内閣印刷局
東京都麹町區大手町

定價
一部十錢（送料一錢）
（外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢）
▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます

申込所
全國各地官報販賣所
書店・驛賣店
新聞販賣店
寫眞材料店

本誌を回覽に
本誌を、隣組や職場で回覽するなど、出來るだけ有効に御利用下さい

前線慰問にも
またお濟みになつた本誌を前線慰問に送りませう。送料は内地と同樣で帶封あるひは開封にして第三種と明記すれば一部一錢です

（寫眞週報）A4版規定國はさき大の書本）

内閣印刷局印刷發行